

政翔会 議会通信 第3号



■市郷土資料館において撮影

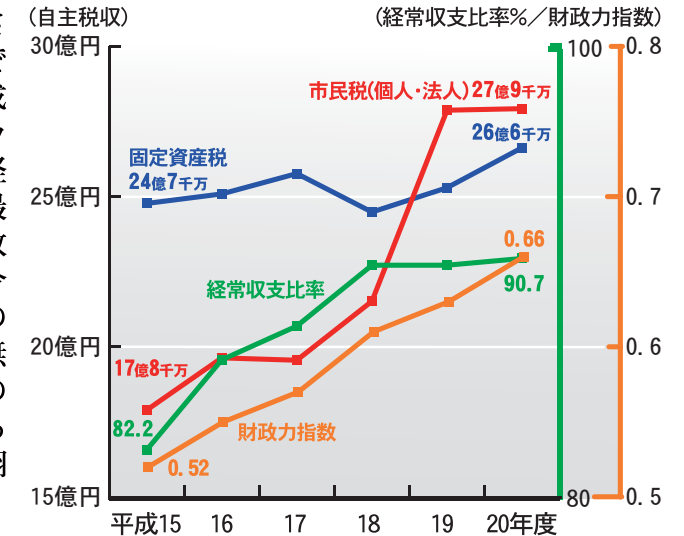
景気低迷をはじめとした様々な情勢や課題に
坪井市長の2期目続投表明へ求める

健全なる市の想いは、健全なる財政に宿る 常に効率を考えた運用と財源確保の努力を

政翔会は、かすみがうら市政5周年に向かい、市民の皆様の夢と希望の実現のために、かすみがうら市の地の利や財政状況を把握して、効率的な市政運営の構築と市の財源確保の努力を坪井市長へ求めます。今後、当市の発展のためには、行政が市民のみならずとも一体となり、国や県のさらなる理解を得なければ、厳しい社会情勢において成長できないものと考えます。市民一人ひとりの想いに応える政翔会として、市長の理念と共に地域の元気を生み出すまちづくりに励んで参ります。

坪井市政による決算の推移5年間を評価 税収・財政力の成長と経常収支比率高騰を抑制

平成21年第3回定例会が9月に開催され、平成20年度の各会計決算を賛成多数で認定しました。市として過去6年間(平成15・16は旧町合算)の決算推移は、右グラフの各財政指標(市税収、財政力指数、経常収支比率)のとおり、国県補助減の最中、新市初期の事業化において健全な財政運用を進めてきたことが表れています。今後も混迷する景気情勢に対し、財源確保の課題や新たなニーズに応じるためにも、無駄のない効率的な行政運用に加え、税収の堅持と共に新たな財源確保の方策を講じる市長のリーダーシップが必要となり、政翔会は、その運用をしっかりと見守ります。



歴女人気No.1 かすみがうら市出身の幕末志士 新選組参謀・御陵衛士隊長 伊東甲子太郎の慰霊を訪問



平成21年7月10日、政翔会は、京都市内で幕末の志士として活躍した新選組参謀の伊東甲子太郎(いとうかしたろう)の殉難の士の跡を慰霊訪問しました。この供養塔は、JR京都駅近くの七条油小路地区の本光寺の境内に慰霊されています。伊東甲子太郎は、1867年(慶応3年)、新選組を他14名の同志と共に離脱後、御陵衛士(ごりょうえいし/天皇等墓の警護)を結成しましたが、この本光寺前で新選組の襲撃により非業の最期を遂げました。

政翔会とは

政翔会(せいしょうかい)は、かすみがうら市のまちづくりのために地方自治行政の調査や研究活動を行う、市議会議員同志9名による当市議会の最大会派です。そして、私たち政翔会は、市民のみなさんの想いを担い、かすみがうら市がめざす「きらきら いきいき ふれあい育む 豊かなめぐみ野」のテーマへ貢献することを誓います。